



筑西市  
CITY OF CHIKUSEI

× TURNS

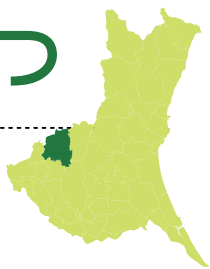
[ターンズ] 特別編集

都心から約2時間。  
『都会じゃないけど、  
田舎すぎない』  
ちようどいいまち。

# Life in Chikusei

## ちくせいかつ

茨城県筑西市  
移住パンフレット



what is chikusei?

# 筑西市って こんなところ

## 茨城県筑西市 Data

(令和5年12月1日現在)

人口：98,097人  
面積：205.3平方キロメートル  
世帯：39,054世帯

### 保育・教育施設数

認定こども園………23  
保育所(園) …… 2  
地域型保育……… 1  
幼稚園 …… 1  
小学校 …… 20  
中学校 …… 6  
高等学校……… 4



## 豊かな「農」が身近に 地産地消のシステムも

総面積の約57%を農地が占める一大農業地帯。国内トップクラスの生産量を誇る梨をはじめ、いちご、常陸秋そば、こだますいかなど名産品も数多い。北関東最大級の道の駅「グランテラス筑西」や、JA北つくば直営の農産物直売所「ファーマーズマーケットきらいち筑西店」など、地産野菜が手頃な価格で手に入る場所もある。



## 誕生祝い金20万円など 手厚い出産・子育て支援

乳幼児を持つ親は、市役所1階のキッズコーナー「ちっくんひろば」が無料で利用可。大型すべり台やボールプールのある遊び場は、子どもたちに大人気だ。子育て世帯に手厚いのは環境だけでなく。筑西市に誕生したお子さんの保護者を対象とした「誕生祝い金」や、小中学生への「入学祝品」の贈呈など、幅広い支援制度によるサポートがある。子育て情報は「筑西市子育て支援アプリ」で配信中！



## 四季折々の姿が楽しめる イベントが盛りだくさん

四季折々の自然の景観や郷土芸能、祭りなど、1年を通してさまざまなイベントを楽しめる筑西市。なかでも、毎年担ぎ出される神輿として日本最大級の平成神輿が市内を練り歩く「下館祇園まつり」や約100万本の八重ひまわりが一斉に咲き誇る「あけのひまわりフェスティバル」、打揚総数県下最大級2万1発の「ちくせい花火大会」には、市外・県外からも多くの人が訪れ、賑わっている。



## 医療、災害への対策も万全

16の診療科と250床の病床を擁する中核病院「茨城県西部メディカルセンター」が地域の医療機関、近隣の大学病院と連携し、重症の救急患者にも対応するなど高度な医療環境を提供。また、災害拠点病院としても、「筑西市地域防災計画」に基づく万全な防災体制を敷き、地震や水害、土砂災害など、もしもの際に備えている。



## 筑波山を望む 風光明媚な都市

男体山と女体山、二つの頂を持つ秀峰・筑波山を市内各地から望む環境。市内を歩けば「筑波山に見守られて生きるまち」を実感するはず。特に東部地域では、田畑と筑波山との共演が織りなすパノラマを一望できる。市内屈指の景勝地「母子島遊水地」は、2月と10月の年2回、筑波山の山頂から朝日が昇る絶景「ダイヤモンド筑波」が見られることで有名だ。



## 都心から約2時間。 『自然』も『文化』もちょうどいい

日本百名山のひとつ、筑波山の西に位置する茨城県筑西市。関東平野に位置し、約9万8千人の人口を擁する茨城県西部の中核都市は、豊かな自然環境と農商工業が盛んな側面をバランスよく併せ持つ。都心から電車や車で約2時間とアクセスも良く、便利さと田舎暮らしを求める人には“ちょうどいい”環境が手に入るまちだ。

文・鈴木翔 写真・渡部聡



家族4人が「ずっと笑っていられる生活」を目指しているという板倉さん。理想の暮らしへの第一歩を歩み始めた



# 子育て

in chikusei



## 家族の空気を変えた筑西市 移住で生まれた“ゆとり”

板倉珠美さん

「前の家に住んでいた頃は家族の仲がギスギスしていて、子どもたちとも良い関係を築けない時期がありました。それが筑西に来てからは、穏やかな暮らしに変わったのを感じます」  
移住後の実感をそう語ってくれたのは、2022年に千葉県流山市から越してきた板倉珠美さんだ。家族関係が好転した一番の理由として板倉さんが挙げるのは、贅沢をしなくても豊かな暮らしができていくこと。  
40歳を迎えた頃から持ち家を検討し始めたという板倉さん。生まれも育ちも流山市だが、一番下の子が産まれた頃から、「地元からあまり遠くなく、自然の多い場所で暮らしたい」という考えを抱いていた。筑西市のことは「夫が仕事で来ていて名前を知っている程度の場所」だったが、予算に見合うフルリノベーション物件が見つかり購入を即決。家族4人に加えて、犬1頭、猫3匹、鳥4羽、亀1匹も連れた「大家族移住」を果たした。  
休日には子どもたちを連れて趣味の史跡巡りや川遊びをエンジョイ。自然があるスポットに頻繁に出かけ、紅葉の名所である最勝寺などお気に入りの場所もできた。商店、学校、病院な

ど生活に必要な施設が不便ではない距離に一通り揃う環境も気に入っている。一方で、夫の照賢さんは夢だったガレージ付きのマイホームを手に入れ、趣味の車いじりに熱中。新しい土地でそれぞれの楽しみ方を見つけている。  
生活にゆとりができたのは、生活環境が変化しただけではない。照賢さんは移住を機に転職。同業種だが、深夜に出勤し、平均睡眠時間が4時間というほど常にストレスフルだった以前の仕事よりも自由度の高い働き方へ変わった。収入が変動したことにより板倉さんも市内の企業でパートを始めることになったが、トータルで考えれば家族で過ごせる時間が増えた。「流山にいた頃はちゃんと取れていなかった子どもとの時間を、ここに来てからは夫婦揃って意識して作れるようになりました。もしかししたら、筑西に来て一番生き生きしているのは、私や子どもたちよりお父さんなのかもしれません」  
一方で、多感な時期に転校することになった中学2年の長男には多少の心配を感じていた。それゆえ新しい環境に早く馴染めるようにと、どこに出かける時にも「ダメ」を言わないよう

### 筑西市のモノ

やりくり上手な板倉さんがよく通っているのが、道の駅「グランテラス筑西」にある農産物直売コーナー。筑西市産の野菜が並ぶ中で、板倉さんに特に欠かせないのがネギだ。板倉さん自身が「納豆1パックに対してネギを1本使う」というほど猛烈なネギ好き。白ネギも青ネギも同じくらい購入し、さまざまな料理に使う。ネギは筑西市の特産品のひとつ。まさに地産地消を実践している。



### 筑西市のコト

市内のほとんどが平地のため、引越してきて「虹がアーチ状で見渡せることに感動した」と語る牧子さん。引越してきて初めての「ちくせい花火大会」も自宅の近くから見る事ができたそう。道の駅「グランテラス筑西」周辺で打ち上がる、この花火大会。2023年の開催では、茨城県を代表する花火師3社が競演。2万1発の花火が上がり、平野ならではの迫力で市民を魅了した。



## テレワーク空間をDIY 夫婦二人で過ごす静かな暮らし

坂本和昭さん・牧子さん

in chikusei



それぞれが趣味を謳歌し、ときには一緒に楽しむ。筑西への移住で、夫婦の時間も充実したものになった



坂本和昭さん、牧子さん夫妻は、2022年にそれまで18年暮らした東京を離れ、筑西市に移り住んだ。  
和昭さんは、化学系の研究室を構築する企業を営んでいる。取引先は研究施設が集まる筑西のお隣つくば市内に多く、多い時は3日に一度のペースで打ち合わせに通うこともあるため、「つくば市の近くで自然の多いところに住みたい」というのが移住のきっかけだった。  
つくば市から30分圏内を条件に、週末たびに旅行気分分各地の不動産屋を飛び込みで訪ね、気になる物件を見学。その末、近過ぎず遠過ぎない距離にご近所が点在し、完全リフォーム済みで手に入る今の家が気に入る。市の移住支援金も活用して購入を決めた。  
つくば市に用事がある時以外は基本的にテレワーク。日当たりのいいウッドデッキを自作するなど、本業ながら次々とワークスペースを構築している。ときにはスマホ片手に母子島遊水地へ行き、筑波山の絶景をバックにリモート会議をすることも。「周りから『どこで話します?』って驚かれることが多いです」と話し、筑西の魅力発信にも貢献している。

「周りは農家さんばかりなので、ご近所のリズムに合わせて、すっかり早寝早起きになりました。東京にいた頃は夜遅くまでパソコンと向き合う生活だったので、時間の使い方を考えるようになりましたね」と暮らしの変化を語る和昭さん。ちなみに引越してまずやったことは自治会への加入だったそう。「小さな地区では外から新しい人が越してきた噂はすぐに広まるので、できるだけ早めに地域に溶け込む姿勢を知ってもらうことが、いろいろ面倒を見てもらえるポイントだと思います」と移住者にアドバイスを送る。  
ご近所からとれたての作物をもらうことも頻繁で「野菜を買うことが少なくなりました」と牧子さん。オフの日には小貝川や五行川へ夫婦でツーリングに出かけるなど、筑西の生活をエンジョイしている。ただ、和昭さんにとってひとつだけ不満だったのは、近くにお酒が飲める店がないこと。そこはやはり和昭さん。何とリビングにバーカウンターを作ってしまった。音楽や読書など、多彩な趣味を持つお二人。都会よりも早く寝静まる土地で、小さな灯りのもとで飲む一杯は、夫婦に静かな時間を運んでくれる。

夫婦共通の趣味は剣道で、和昭さんは7段、牧さんは4段の腕前。次は家の隣に稽古用の道場を建てる計画を進行中だ。「若い人が出ていってしまうと地域の元気も自然となくなってしまうので、今後は中学生や高校生とも交流を持ちながら、みんなが喜んでくれるような面白いことをしていきたい」と次なる目標を語ってくれた和昭さん。移住から1年余りが経ち、最適な住居が完成しつつある今、次の関心は地域の活性化に向かうとしている。



天然酵母と国産小麦を使用したパンは心も身体もホッとする味わい。季節によって種類が変わり、常時約30種類が店内に並び



# 起業

in chikusei

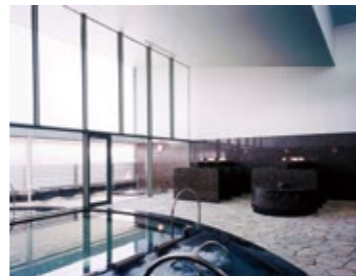
## 筑西と東京で好きな仕事を両立

平井典子さん パン職人と予備校講師

筑西市の下館駅から東京駅まではJRの在来線で2時間程度。毎日通う距離としてはやや遠く感じるが、週数日の通勤であれば、都心と筑西の両方で仕事を持つことも難しくない。そうした生活を実践するのが、8年前に横浜から筑西に移住し、「パン工房Minori」を営む平井典子さんだ。

古民家に引っ越したら何かお店を開きたいと考えていた。そこで横浜時代に、フランスに本拠地がある料理専門学校に2年間通い、パン作りの技術を習得。その腕をもとに、自宅の一角に「パン工房Minori」をオープンした。

市だったが、住み始めてみて周りの環境も好きになった。農家が多い地域ゆえ、パンと野菜をおすそ分けしあうなど近所との良好な関係も築けている。「いずれは蔵をカフェに改装して、庭にバラ園やハーブ園を作りたい」と語り、夢が広がる。



### 筑西市のバショ

パン職人と予備校講師という2つの顔を持ち、毎日忙しい平井さんの身近な癒しスポットが、健康増進施設「筑西遊湯館」だ。館内には温水プール、人工温泉、トレーニングジムなどを併設。「夜までやっているので予備校の仕事がない日によく行きます。広い風呂に入るとホッとします」と平井さん。大人600円、子ども300円というお手頃な利用料金も魅力的なポイントだ。

東から昇る朝日に照らされて一日が始まり、日暮れには静かに夕闇へと消える筑波山。その勇姿を背景にトラクターのハンドルを握る。それが大吉達郎さんの日常だ。

た。しかしながら、田植えの時期に作業を手伝ったことがあるくらいで、本人の経験値は新規就農に近い状況。特に準備期間も設けないうまま戻った甘さが、後に苦労が変わる。

「農家って、ただ作物を作っていればいいというイメージだったのですが、帳簿付けや税金の計算などの雑務もありますし、大雪が降った翌日には地区の中で除雪を頼まれることがあったり、それ以外にもいろいろなお仕事があることを知りました。米作りの方も初めは補助的な作業しかできませんでしたし…」



### 筑西市のコト

J Aの青年部で活動する大吉さん。彼らが中心となって花を育て、毎年8月下旬から9月上旬に開催されているのが「あけのひまわりフェスティバル」だ。このイベントでは広大な田畑に何と約100万本の八重ひまわりが咲き誇る。「筑波山をバックにひまわりの花が揺れる景色は、なかなかの絶景ですよ」と大吉さんイチオシ。休日には飲食ブースの出店も。

続けられる形を作ろうとしている。

「J Aの青年部などで品種や機械の情報交換をしていると、いろいろ新しいアイデアが浮かんできますし、好奇心の強い方には合っている仕事だと思います」と大吉さん。一方で、後継者不在で家業をたたむ農家が増えつつある現実も実感。大吉家でも廃業した農家の畑を引き受けており、地域の行く末を憂う。そうした思いもあって、子どもを

## Uターンで親元就農 筑西の景観を次の世代につなぐ

大吉達郎さん 米農家



先世代々の土地があり、両親という強力な「メンター」はい

同期が次々と各地へ散っていくのを見るうちに、縁もゆかりもない土地に行くなら地元のためなんです」と語り、次の年に退職して実家に戻った。

自動操舵してくれる機能を取り入れるなどスマート化を推進。両親の引退後も安定して農業を

## 農業

in chikusei



ICT技術を取り入れスマート化を図るなど新しい技術を取り入れながら、これからの農業の形を模索している



# 我が家の“ちくせいかつ”



家族で買い物をしたあと、自然の風に触れたくなって母子島遊水地を訪れました。ここからは筑波山が美しく見え、年に2回「ダイヤモンド筑波」が見られることでも有名です。この日はそんな特別な日ではなかったけれど、これが何気ない我が家の日常です。



夏休み期間中は、子どもたちとお散歩するのが毎朝の日課に。田舎道をのんびり歩いていると、毎日いろいろな発見があって楽しかったです。散歩中は、お兄ちゃん2人が交代で妹のベビーカーを押してくれたので、ママは大助かりでした。



下館青年会議所が企画した「しもだて祇園祭子どもみこし体験事業」に参加しました。息子はお神輿初体験。想像以上に重く、大人の手を借りつつも担ぐ側の楽しさを満喫できたようです。しかし休憩しながらとはいえ約4時間。息子よ、よくがんばったね!



子育てママ3人に聞きました!

左から加納さん、齋藤さん、小田嶋さん

## 地域に見守られて生き生きと子育て

加納奈々さん・齋藤さつきさん・小田嶋一枝さん

## 子育て座談会

in chikusei



若い世代の移住受け入れに力を入れる筑西市は、子育て世帯の支援にも積極的だ。ここでは小学生以下の子を持つ子育て世帯の3名に登場いただき、筑西の子育て環境について伺った。

**加納**「最初に感じたのは、子どもたちが地域に見守られているということでした。例えば、小学生と中学生の下课時間になると、子どもたちの声で『これから私たちの下课時刻になります。私たちが帰り道で事件・事故に遭わないよう見守ってください』という広報無線が毎日流れるんです」

**小田嶋**「その放送が毎日あるからか地域の見守りが浸透していて、うちの子も近所の方からよく『かんちゃん、おかえり!』と声をかけてもらいます。下の名前でも呼んでくれるので、子どもの方も地域の方を名前と呼ぶようになって、自然と挨拶できる子が育つ環境なんだと思いました」

**齋藤**「あと、蛍光のタスキをかけて自転車通学する中学生を見た時に驚きました?」

**小田嶋**「確かに。学校で使ったのをそのまま付けてきちゃったのかなって。そのあたり、交通安全の心がけも徹底されていますよね」

**齋藤**「筑西育ちの私はタスキは当たり前だと思っていました。卒業式に好きな子のタスキをもらう文化が昔からあったり...」

**加納**「え、本当に? (一同、笑)」

—皆さん、筑西で出産を経験して子育てをされています。行政のさまざまな子育て支援の中で、特に筑西ならではの制度は?



今回訪れたのは無料で遊べるキッズコーナー「ちっくんひろば」

筑西市役所1階にある無料のキッズコーナー。コンパクトな空間の中に、全長10.5メートルの大型すべり台、広いボールプールなど思いきり体を動かして遊べるスペースのほか、絵本や乳児用のおもちゃも揃う。子育てをする親同士の相談と交流の場にも。

いない子でも一時預かりをしてくれる保育園があるところも心強いです。小さい子を見ていると上の子との時間がなかなかとれないのですが、この前、長女を預かってもらって、上の子の家庭教育学級に二人で行くことができました」

—筑西といえば、2020年から始まった新生児一人につき20万円の「誕生祝い金」も大きな話題になりましたね。

**齋藤**「我が家も長女を産んだ時にいただいた、とても助かりました。うちは3人目でしたが、初めての出産だと何も揃っていないという家庭も多いので、周りのママさんたちの声を聞いても、ベビーベッドやチャイルドシートをかうのに活用したという話が多いです」

**小田嶋**「ミルク代とかオムツ代とか、日々の消耗品にも結構お金がかかるので、本当に助かりますよね」

**加納**「それに筑西市は、第2子以降の保育料が無料だから、共働きのご家庭も心強いと思います」

**小田嶋**「医療費についても助成があり、高校生まで外来は1日600円、入院は3000円の自己負担で済むから、もし何かがあっても安心ですよ」

—子どもの遊び場など、環境面でのいいところは?

**小田嶋**「皆さん、公園ではどこに行くことが多いですか?」

**加納**「大きいところだとヒロサワ県西総合公園によく行きます」

**齋藤**「夏はじゃぶじゃぶ池もあって子どもたちが喜びますよね。遊具も多くて、特に巨大滑り台や大きなトンネルみたいな遊具は、いつまでたっても遊ぶことをやめない(笑)」

**小田嶋**「小さい子だと、ここ(ちっくんひろば)の滑り台も人気ですよ。あと、SLを見られるために下館駅にもよく行きました」

**加納**「道の駅の「グランテラス筑西」で頻りにワークショップをやっている、そこに参加するのも我が家の楽しみのひとつです」

—皆さんのお話から筑西市の子育て環境の良さがしっかり伝わってきました。最後に御三方を代表して加納さんから、筑西市で子育てをしているからこそ実現できたことを伺いたいです。

**加納**「時間をかけなくても自然のある場所に行ける環境が最高ですね。自然の中で遊べて、旬の野菜をたくさん食べさせてあげられる。そういうところについても幸せを感じています」

### 筑西市の子育て支援 (一部掲載)

- **子育て支援コンシェルジュ**  
保護者の方からの相談を受け、保育・子育て支援サービスなど、それぞれのニーズに合った情報を提供します。
- **母乳育児用品**  
母乳育児を応援するため、妊婦のみなさんに授乳服やバッグ1万円相当の品をお贈りします。

- **誕生祝い金**  
赤ちゃんの誕生をお祝いし、筑西市に誕生したお子さん1人につき20万円を交付します。
- **入学祝品**  
小学校入学時にランドセルと学用品など5万円相当を、中学校入学時に通学用ヘルメットと学用品など2万円相当の品をお贈りします。



四季を通じて自然が楽しめ、大型複合遊具が人気のヒロサワ県西総合公園



茨城県筑西市  
須藤茂 市長

1951年生まれ。国会議員の秘書後、市議会議員として10年間活動。2013年に筑西市長に就任（現在3期目）。「一人では何もできない」を信条としており、日々、市民・職員・議員に感謝しながら、市政に取り組んでいる。

「茨城県西部メディカルセンター」ができました。一次医療と二次医療が連携して2人主治医制とし、さらに高度な医療が必要な場合には、筑波大学と自治医科大学の附属病院と連携しており、両病院ともに車で約40分圏内の距離にあるので非常に充実しています。

堀口 「グランテラス筑西」に



県外に出た若者にふるさとの想いを届ける「ちくせい若者支援便」には、市長直筆の応援メッセージを同封

の経済負担を減らすための支援を整えてきました。比較的新しい支援のひとつが、3年前に始めた本市独自の「誕生祝金」の支給です。この事業では一定の条件を満たす方に、第1子から一人20万円のお祝い金をお贈りしています。出産には平均60万円かかるといわれていますから、国の出産育児一時金と合わせて必要な費用がすべて収まる計算です。

堀口 第1子から支給されるとは、素晴らしい取り組みですね。須藤 育児においても、保育料を助成することで3歳未満の第2子以降のお子さんは無料にしています。また、大変多くの方から反響をいただいているのが、小中学校の新生児を対象とした「入学祝品」の贈呈です。新小

5万円相当の学用品を、新小1年生には通学用ヘルメットを含む2万円相当の学用品をお贈りしています。堀口 小学生の方は、ノートや工作道具、防災ずきんまで、市から支給されるのですね。これだと保護者が準備するものはほとんどありません。須藤 ランドセルは黒、赤、キヤメルの3色から選べますし、中学生に贈っている通学用ヘルメットは学童用の帽子型ではなく、スポーツタイプというのが密かな自慢です。通気性もいいですし、何よりかっこいいですよ（笑）。そのほか市立小

よう幅広くサポートされているんですね。須藤 また、3年前に「ちくせい若者支援事業」を始めました。これは、県外に転出し、勉学や就業に励む18歳から25歳の若者を対象に、親御さんからの申請に基づき筑西市産のお米やお菓子などを贈る取り組みです。私からのメッセージも一緒に入れ、「いつでも応援しているよ」という気持ちを込めて届けています。堀口 テレワークも広まって故郷で働くという選択のハードルも下がっていますし、こちらから思いを届けることで、若者のUターン喚起につながるでしょう。一方で、移住希望者の中には医療環境の充実を気にされる方も多いのですが、そのあたりはどうでしょう。

堀口 もうひとつ伺いたいのは、開業から5年目を迎えた第3セクターの道の駅「グランテラス筑西」についてです。道の駅ができるという光景にも地域的にも人の流れが大きく変わると思いますが、特に顕著に感じる変化はどんなところでしょうか。須藤 毎年100万人近い方々にお越しいただき、4年連続で年間売上高がアップしています。開業の翌年からコロナ禍に入っただ中で黒字が続いているのは、経営に関わる行政側としても正直驚いて驚いています。堀口 好調の理由はどんなところでしょうか。須藤 専用アプリやオンラインショップをはじめとしたデジタル化を推進し、オンラインでも収益を作れる仕組みを作ってきたこともありますが、屋外の芝生広場にステージを作った効果も大きいと思っています。屋内のイベントに強い規制がかかった影響で、たくさんの方のアーティストに次々利用してもらい、それを呼び水に多くの方に来場いただくことができました。実は芝生広場はスラックラインの施設も併設していて、いつか日本選手権のような大きな大会を開きたいと思っています。

は拡張の話もありますね。須藤 道の駅の西側の土地を候補地に、駐車場と広場を中心とした施設の増設を検討中です。広場は、子どもの遊び場としてだけでなく、健常者の方でも身障者の方でも、多くの方がともに過ごせるインクルーシブな空間づくりを目指しています。堀口 貴重なお話を聞かせていただき、ありがとうございます。須藤 最後にTURNS読者に向けてメッセージをお願いします。須藤 筑波山を望む自然豊かな地域でありながら、農商工業も程よく揃っているところが筑西市の魅力です。また、お米をはじめ新鮮な野菜、そして、特産品のキングポークや常陸秋そば、こだますいか、梨など、美味しいものもいっぱいあります。住んでいる市民の方々の人の良さも自慢なので、ぜひ一度お越しください。「住んで最高！筑西。」の一端を感じてもらい、さらには新しい暮らしの場として選んでいただけたら幸いです。



市長にインタビューしました！

# 「住んで最高！筑西。」 誰もが住みやすいまちを目指して

市長 in chikusei

堀口 今日は埼玉県の自宅から車を運転してきましたが、筑西市は本当にいいところから筑波山が綺麗に見えるんですね。須藤 関東平野にあり、市内のほとんどが平坦な地形で視界を遮る高い建物も少ないですからね。カーナビがない頃は「道が分からなくても筑波山を目印にすれば帰ってこられる」なんてよく言ったものです。市内には鬼怒川、小貝川など幾筋もの一級河川が流れていて、その豊かな水源による肥沃な田園地帯が広がっています。筑波山、河川、田園地帯、この3つが筑西らしい景観の源です。堀口 2013年のご就任から「住んで最高！筑西。」をスローガンに人口減少の課題に取り組んでこられました。2022年度は1市3町の合併後初めて転入者が転出者を上回りましたね。移住者の受け入れで特に力を入れてきたのはどんなところでしょうか。須藤 令和2年度から実施している「第2期筑西市総合戦略」で「若い世代の結婚・出産・子育ての希望をかなえるとともに、誰もが活躍できるまちをつくる」を一番の基本目標に掲げて、若い世代に向けた施策に取り組んできました。東京からの移住者

で18歳未満の子がいる場合、1世帯100万円の移住支援金に子ども一人あたり100万円を加算する「子育て世帯加算」や、若者・子育て世帯が住宅を取得した場合に最大50万円を支援する「若者・子育て世代住宅取得奨励金制度」が、その代表的な取り組みです。また、移り住んで長く定着してもらうには市内に雇用を生むことも重要だと思っています。筑西は産業用ロボットの製造で世界的知名度を誇るファナックの工場や、日本ハムの国内最大規模の工場など、もともと大きな企業の拠点がいくつかありますが、市長になってから、関係者皆様のおかげで新規・増設合わせて17の企業の誘致につながりました。堀口 筑西市という子育て世帯への支援が手厚いことで知られていますね。須藤 安心して出産・子育てを

TURNS プロデューサー  
堀口正裕



## アクセス

### ● 電車

主要駅  
下館駅

東京駅 JR 小山駅 JR 下館駅  
上野東京ライン JR 水戸線  
で約 **110分**

秋葉原駅 つくば 守谷駅  
エクスプレス線快速 関東鉄道 常総線快速  
で約 **90分**

### ● 乗用車

#### 東北自動車道

佐野藤岡 IC から国道 50号線で約 **60分**

#### 常磐自動車道

谷和原 IC から国道 294号線で約 **60分**

#### 首都圏中央連絡自動車道

常総 IC から国道 294号線で約 **30分**



## 移住をお考えの方に、移住サポート！

### オーダーメイド型移住体験ツアー

市職員等がコンシェルジュとして  
市内をご案内します。

ご希望に応じて、市内各所を巡りながら  
先輩移住者からの話を聞くことも可能です。

### 移住希望者滞在費補助金

暮らしの体験や住居・仕事探しを目的に筑西市内に  
宿泊する方へ、宿泊費の一部を補助します。

上限 1名 **3,000円** ※1家族4名まで

### 移住支援金

条件

東京23区(在住者又は通勤者)から  
筑西市へ移住し、  
諸条件を満たした方に交付します。

世帯(2人以上の家族)  
で移住した場合

**100万円**

※子ども加算 1人につき100万円

単身(1人)  
で移住した場合

**60万円**



### 若者・子育て世代住宅取得奨励金

筑西市内に  
住宅(新築・中古)を  
取得し、諸条件を  
満たした方に交付します。

1世帯あたり  
**40万円** 市外から転入の  
場合には  
50万円

### 空き家バンク

筑西市が独自に空き家情報を紹介しています。

空き家の持ち主と移住希望者とのマッチングを図ります。

その他、就業・就農・出産・子育て等に関する支援制度も充実しております。  
詳しくは、移住定住応援サイト「ちくせいかつ」をご覧ください。

お問い合わせ先 |

筑西市移住・定住相談窓口(筑西市企画部地方創生課内)

〒308-8616 茨城県筑西市丙360

TEL: **0296-22-0500** E-mail: **sousei@city.chikusei.lg.jp**

移住定住応援サイト  
「ちくせいかつ」

